唐津港 PORT OF KARATSU

唐津港の概要

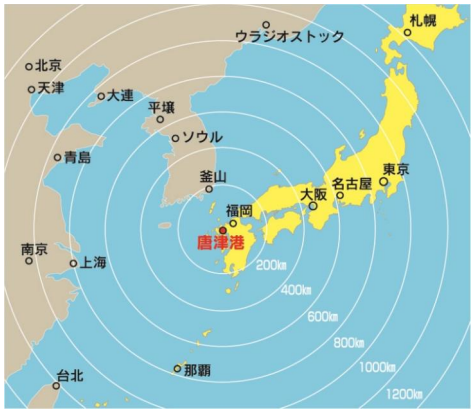
唐津港は、佐賀県北西部の玄界灘を経て日本海に面し、日本三大松原の一つ「虹の松原」に代表される美しく豊かな自然など風光明媚な景観を有しています。その中にある唐津港は、島々により静穏な水域をもたらされた天然の良港として発展してきました。

江戸時代後期に石炭を積み出すための港として松浦川河口部にできた後、唐津鉄道が開通したことから、明治30年頃に港の中心が西港(今の大島・妙見地区)へ移りました。明治、大正期は全国でも屈指の貿易港として発展しました。昭和30年代後半のエネルギー転換により石炭産業が衰退したものの、昭和45年に港湾計画が改訂され、県勢振興計画に基づき外内貿ふ頭の拡充整備、地域開発を促進するための工業用地の造成、さらにレクリエーション需要に対応するための海洋性レクリエーション施設の整備が図られるなど、現在の唐津港が概成しました。

平成17年11月に現在の港湾計画に改定され、増大する貨物や大型旅客船受入のための既存ふ頭の再編、地域の安全・安心を支えるための耐震強化施設の整備、快適で潤いのある環境の創出を図るための緑地の整備などを行っています。

現在はLPGや建設資材などの物流基地、水産加工などの工業団地が隣接する魚の水揚げの水産基地として、さらに旅客船やイベント船などが寄港する観光港、ヨットや海水浴場などの海洋性スポーツ・レクリエーションの場として、唐津港は本来「みなと」がもつ多様な機能を広く有する多機能型の港湾として重要な役割を果たしています。

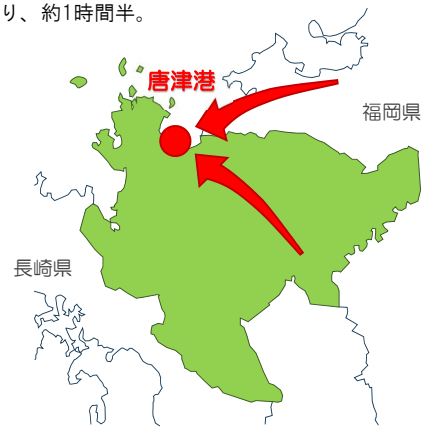
唐津港の位置・アクセス



唐津港はアジアとは地理的に近く、歴史的にも非常に深い関わりを持っています。
韓国ソウルと大阪はほぼ同距離にあり、釜山港にわずか200km、また1,000km圏内には上海、青島、大連といった中国の主要商業港が、関東地区と同じ距離に位置しています。

■唐津港へのアクセス

♦福岡方面から
福岡市街地より車で約1時間10分。
♦佐賀方面から
佐賀市内より車で約1時間10分。九州佐賀国際空港より、約1時間半。



唐津港の主な地区

内航、外航クルーズ船が寄港可能な岸壁を有し、長崎県壱岐市(印通寺)との定期船の発着ターミナル(交流センター)があります。また、ターミナル周辺の緑地と共に「みなとオアシスからつ」に認定されています。

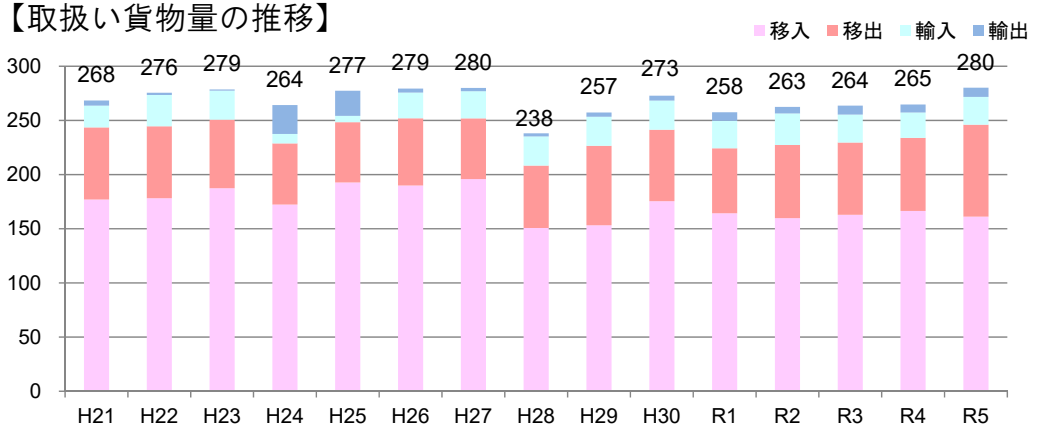
主にLPG、石油製品、砂利・砂を扱っています。特にLPGは九州地方に輸入されるおよそ4分の1を扱っており、九州各港(主に福岡県、佐賀県)に出荷されています。

魚市場をはじめとした水産関連企業が立地しています。
年に1度、お魚まつりも開催され、賑わいをみせています。

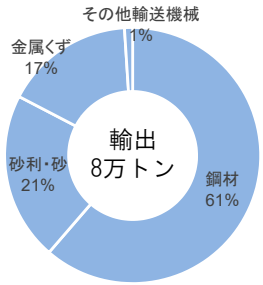
鋼材、セメント等外内貿の貨物を多く取り扱っています。
約28haの工業用地を有し、水産加工企業等、多数の企業が立地しています。

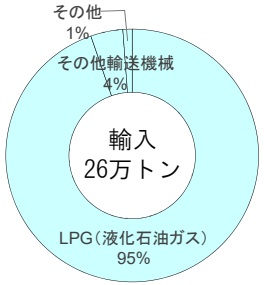
唐津港の取扱い貨物

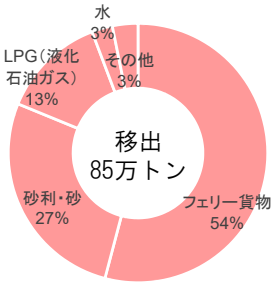
【取扱い貨物量の推移】

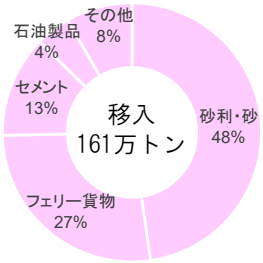


【取扱い貨物の内訳(令和5年)】



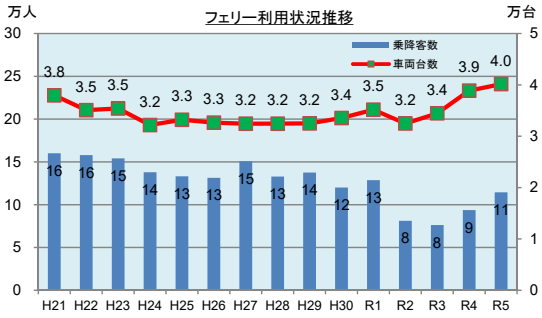






出典：唐津港統計年報

唐津港発着の主な定期航路



出典：乗降客数は唐津港統計年報、車両台数は佐賀県より提供

内航フェリー航路	船社名	便数
唐津～壱岐(印通寺)	九州郵船	5便／日

船　名	エメラルドからつ	ダイヤモンドいき
船　長	75.3m	75.7m
総トン数	984トン	932トン
旅客定員	350名	350名
積載台数	約46台	約43台

出典：九州郵船(株)HP

唐津港港湾計画図

PORT OF KARATSU

唐　津　港

2023

1 : 10,000

施設名	水深	延長	バース数
大島地区			
① 専用岸壁	-7.5m	110m	1
② 大島1号ドルフィン岸壁	-7.5m	110m	1
③ 大島ふ頭岸壁	-5.5m	360m	3
水産ふ頭地区			
④ 西港2号岸壁	-4.5m	90m	1
⑤ 西港3号岸壁	-4.5m	240m	2
⑥ 西港4号岸壁	-6.5m	110m	1
⑦ 西港5号岸壁	-7.5m	260m	2
妙見地区			
⑧ 妙見2号岸壁	-5.5m	180m	2
⑨ 妙見3号岸壁	-7.5m	260m	2
⑩ 妙見4号岸壁	-12.0m	240m	1
⑪ 妙見5号岸壁	-7.5m	130m	1
⑫ 妙見6号岸壁	-5.5m	90m	1
東港地区			
⑬ 東港フェリー岸壁	-4.5m	115m	1
⑭ 東港岸壁	-9.0m	230m	1

風向風速図

唐津港港湾区域（唐津港港域）

唐津港臨港地区分区位置図

位置図 1 : 280,000

水深図

凡例

佐賀県地域交流部港湾課

唐津港湾事務所編集（令和6年4月1日）

事業概要

【東港地区】複合一貫輸送ターミナル改良事業(耐震)

施設の老朽化対策を図るとともに、港湾貨物の輸送効率化やクルーズ船の受入対応、大規模地震発生時の輸送機能確保を目的とした水深9.0mの複合一貫輸送ターミナルの耐震改良を行っています。平成19年度より整備に着手し、平成27年度に耐震強化岸壁を完成させ、平成28年4月より水深7.4mでの暫定供用が開始され、平成30年4月には佐賀県初の外国クルーズ船が寄港しました。現在は、水深9.0mの供用に向けて、航路泊地を増深・拡幅するための浚渫工事を実施しています。また、新たな航路拡幅するため防波堤の一部撤去を計画しています。

岸壁(-9m)(耐震)
平成28年4月暫定供用開始

航路泊地(-9m)　整備中

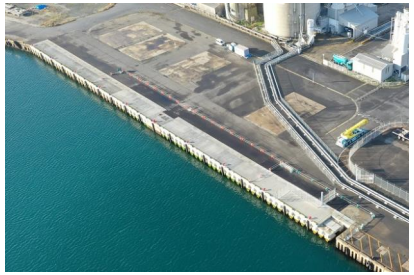
【妙見地区】予防保全事業(岸壁(-7.5m)(改良))

妙見地区水深7.5m岸壁は、整備後40年以上が経過し、床板などの劣化が進行していることから、岸壁の一部を制限した利用を行う非効率な荷役を強いられています。また、施設が崩壊した場合、地域の経済活動に支障をきたすことにもなるため、早急に岸壁を改良することで、荷役作業の効率化と基幹産業支援を目的とした予防保全事業を行っています。

予防保全事業は、令和2年度から整備に着手しました。なお、水深7.5m岸壁では、背後のセメントサイロまで圧送管によりセメントを輸送しているため、2バースのうち1バースを供用させながら工事を進めています。

施設の老朽化により
利用制限を強いられている

老朽化により腐食した岸壁内部



岸壁(-7.5m)(改良)　整備中
(1バース目施工済箇所)

唐津港の歴史

縄文時代末期	BC 500頃	唐津市菜畑で大陸から伝えられた稲作を日本で初めて行う。(菜畑遺跡)
鎌倉・室町時代	AD 1300～1400	中国や朝鮮半島との貿易が行われており、当時の大陸との交渉の拠点となる。 (徳蔵谷遺跡から遺構と高麗青磁、青磁、白磁、通貨が発見された)
江戸時代	1608(慶長13年)	唐津藩初代藩主寺沢志摩守寛高(てらさわしまのかみひろたか)が7年の歳月を費やして唐津城を築城する。また、城を守るために松浦川の流れを現在の形に変え、河口部が唐津港のはじまりとなる。
明治・大正	1889(明治22年)	唐津港が石炭の特別輸出港に指定され、唐津長崎税関出張所設置。
	1896(明治29年)	輸出制限が撤廃され、石炭港から開港貿易港に指定。
	1897(明治30年)	唐津鉄道の敷設に伴い、松浦川の河口部を利用していた石炭の積出しが実質的に西港区に移る。
	1899(明治32年)	関税法による開港に指定。
	1904(明治37年)	唐津～釜山間に貨物船定期航路が開設される。九州初の朝鮮定期航路。(3年後に解消される)
	1914(大正3年)	パナマ運河の開通により、世界一周航路が開設。関門海峡通峡の際の給炭給水の場となる。
	1918(大正7年)	西唐津に三菱商事や三井物産唐津支店等多くの石炭商社が設立。
	1919(大正8年)	日本で最初の世界一周航路の寄港を契機に貨物量が急速に伸びて、全国屈指の外国貿易港となり、以後数年間唐津港黄金時代を築く。
昭和	1932(昭和7年)	北九州商船(現在の九州郵船)の長崎～釜山、九州～朝鮮～大連航路が月6回寄港することになったが、集荷がともなわず2年後に廃航。
	1936(昭和11年)	唐津港が第二種重要港湾に指定。
昭和	1951(昭和26年)	唐津港が重要港湾及び出入国管理港に指定。 [重要港湾:国の利害に重大な関係を有する港湾] [出入国港:乗員乗客の出入国ができる港]
	1953(昭和28年)	商工ふ頭(現在の水産ふ頭)及び大島石炭ふ頭が完成。佐賀県による港湾管理者の設立。
	1959(昭和34年)	石炭ふ頭(東港区)築造に着手。
	1960(昭和35年)	検疫法により検疫港に指定。
	1965(昭和40年)	石炭需要の低落に伴い、石炭ふ頭を商工ふ頭に機能換えすべく、公共ふ頭の整備に着手。
	1967(昭和42年)	火力発電所発電開始(昭和37年立地)。妙見工業用地及び公共ふ頭を補助事業として着手。
	1981(昭和56年)	妙見工業団地完成。
平成	1989(平成元年)	妙見ふ頭が供用開始。
	1997(平成9年)	植物防疫指定港に指定。
	1998(平成10年)	港内最大の-12m公共岸壁が供用される。定期コンテナ沖縄航路が開設。
	2002(平成14年)	外貿コンテナ航路(唐津～釜山)が開港。(平成16年に運行休止) 動物検疫指定港に指定。
	2004(平成16年)	改正SOLAS条約施行。
	2005(平成17年)	東港地区でフェリーふ頭の整備が着工。 港湾計画改定により、岸壁(-9m)の耐震改良が位置付け。
	2007(平成19年)	唐津～壱岐間にフェリー就航。 東港地区岸壁(-9m)の耐震改良の着手。
	2011(平成23年)	「日本海側拠点港」の外航クルーズ(背後観光地クルーズ)機能の「拠点化形成促進港」に選定。
	2016(平成28年)	東港地区岸壁(-9m)の耐震岸壁供用開始(深水7.4m暫定供用)。
	2018(平成30年)	外航クルーズ船の受入れを開始。

海とみなとの相談窓口

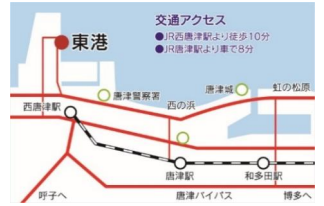
地域の方々のニーズにしっかりと対応しながら、地域の港湾の活性化や地域振興を地域とともに一層積極的に推進していくため、誰もが相談しやすいワンストップの窓口として「海とみなとの相談窓口」を機能拡充することに致しました。

全国共通フリーダイヤル
おーいに　よくなれ　みなと
0120-497370
受付時間　9：30～12：00、13：00～17：00

※フリーダイヤルご利用の場合は、利用者所在地の港湾空港関係事務所の「海とみなとの相談窓口」へつながります。

みなとオアシスからつ

「みなとオアシス」とは、海浜・旅客ターミナル・広場などみなとの施設やスペースを活用して、住民参加型の持続的な地域振興に係わる取り組みが行われる地域交流拠点施設及び地区のことで、「みなとオアシスからつ」は大分港、鹿児島港と同時に九州で初めて認定されたみなとオアシスです。



唐津港湾事務所

唐津港湾事務所
〒847-0861
佐賀県唐津市二タ子3丁目214番地6
唐津港湾合同庁舎2階
TEL：0955-72-3109

唐津港湾事務所 伊万里港分室
〒848-0031
佐賀県伊万里市二里町八谷搦1292番地
TEL：0955-22-3851

国土交通省 九州地方整備局 唐津港湾事務所
https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/karatsu/

スマートフォンは
こちらから

2024.04